

# EY Global Environment Strategy: 重要な行動

**短期的な行動:** ビジネスにおいて脱炭素化を徹底検証して推し進めるため、EYのAll in 戦略を取り入れる

**長期的な目標:** 2050年またはそれ以前にネットゼロを達成し、ネイチャーポジティブ(生物多様性の主流化に向けた社会変革)に関する活動を実践する

## 進捗状況

### GHG 排出量

- FY19以降、EYは収益を41%、人員は36%増加させましたが、総排出量は40%減少し排出原単位で832Kになりました。
- 収益1米ドル当たりの排出量は52%減少し、FTE当たりの排出量は50%減少させました。

### エネルギー

- 企業の全電力を再生可能エネルギーで賄う国際イニシアチブ「RE100」に参加。
- 消費電力の88%を再生可能エネルギー源で賄いました。

### 出張

- 出張によるCO2排出量が42%削減しました。
- 出張排出量計算ツールを開発・実装しました。

### サプライチェーン

- 支出額上位のサプライヤーの61%がSBTiで承認された目標を設定しています。

### 自然

- TNFDのアーリーアダプターとなり、初回報告で準備状況評価を完了しました。

24年度まで

## 今後の取り組み

### GHG 排出量

- FY19の基準に対してさらに排出量を50%削減し、スコープ1、2、3の1.5℃目標に従います。これには、FY24~30までにスコープ3排出量をさらに25%削減することが含まれます。

### エネルギー

- 100%再生可能電力を調達することでRE100のコミットメントを達成します。

### 出張

- テクノロジーと出張判断に役立つ個人別スコアカードを活用して出張の影響を引き続き軽減します。
- EYの航空機利用出張の5%に対して持続可能な航空燃料(SAF)証明書を購入する出張戦略を拡大します。
- EYの車両利用による排出量を85%削減します。

### サプライチェーン

- 購入した商品とサービスを排出量フットプリントに含めます。
- 購入した商品とサービスに関連する排出量を削減するために、サプライヤーやアライアンスパートナーとの協力を促進します。

### 自然

- 気候の影響を軽減するための新しい目標と指標を見だし、そうしたネイチャーポジティブな取り組みを開発・統合するとともに、新しい目標の達成に向けたプログラムを実施します。

30年度末まで

最大の価値をもたらす戦略の策定が目標



## 自然と気候への行動の継続的インテグレーション

炭素市場の信頼性とパートナーシップ構築に向けた取り組み: 私たちは自然に基づく気候変動対策への投資を継続し、炭素市場における信頼性と透明性を高めるための支援を行います。また厳格なデューデリジェンスと内部炭素価格を基に、長期的な投資と多様なステークホルダーとの連携を深めていきます。

今後のターゲットとする分野: グリーンIT、グリーンビルディング、大気汚染、自然環境、廃棄物、水消費に関するデータの収集とターゲット設定の検討を開始します。

5年ごとに戦略を見直します

ネットゼロ達成

FY19 FY24 FY30 FY35 FY40 FY45 FY50